

苫前町

松浦 進之祐

1. 苫前町の概要と歴史

1.1 概要

苫前町（とままえちょう）は、北海道留萌支庁中部に位置する町。北海道留萌支庁内のやや中央部に位置し、町の総面積 454.48 平方キロメートル。東は幌加内町、南は小平町、北は羽幌町に隣接し、西は日本海に面している。緯度・経度は北緯 44 度 5 分 18 秒から北緯 44 度 20 分 43 秒の間、東経 141 度 39 分 5 秒から東経 142 度 5 分 29 秒の間。

海岸地帯は平地で、東部奥地一帯は天塩山脈連峰の山岳地帯と町の総面積の 82% を占める豊かな森林地帯となっている。河川については天塩山系を水源とした古丹別川とその支流の三毛別川、チェボツナイ川が日本海にそそいでいる。

市町村名の由来はアイヌ語「トマオマイ」（エゾエンゴサクのある所）からの転訛が由来である。シンボルとしてはナナカマド、エゾエンゴサクが挙げられる。また特産品は活ほたて、たこ、メロン、大根、かぼちゃ、もなか（ヒグマ三吉）、糠鯿、などがある。

気候は一般的に海洋性気候を示す中、春は比較的気温の上昇が早く、特に臨海部は日本海を流れる対馬暖流の影響を受け融雪も早い。夏は、内陸部を中心に気温が高くなる。秋は多雨の傾向にあるが、最近の年間平均降水量は 1330 ミリと比較的少ない。冬は、内陸部を中心に積雪が多い一方、臨海部は北西から西の季節風が恒常的に吹き、降り積もった雪が強い風によって起こす「地吹雪」で交通機関をマヒさせ住民の生活に影響を及ぼしてきた。最近の風況調査では、10 月から 3 月にかけて秒速 7m 以上の北西からの西の強い風が吹き、年平均でも臨海部(苫前地区)で、6.8 メートルを記録している。

1.2 歴史

1880 年 3 村（苫前村・白志泊村・力昼村）の長役場を苫前村に設置が設置されたのが、苫前長の原型である。1894 年 苫前郡苫前村が白志泊村を編入、苫前郡羽幌村（現羽幌町）を分村する。1897 年 苫前村の戸長役場が羽幌村戸長役場を分離する 1902 年 苫前郡力昼

図 1 苫前町地図



出典：留萌支庁 HP

村（りきびる）を編入、二級町村制、苫前郡苫前村となる。1915 年に一級町村制施行され、また三毛別熊事件が発生した。1948 年に町制施行、現在の苫前町となる。

1.3 三毛別熊事件

三毛別熊事件（さんけべつひぐまじけん、六線沢熊害事件、苫前熊事件とも）とは、1915 年 12 月 9 日～12 月 14 日にかけて、北海道留萌苫前村（現：苫前町古丹別）三毛別（現：三溪）六線沢で発生した日本最大の熊害（ゆうがい）事件。冬眠に失敗した空腹のヒグマが数度にわたり民家を襲い、当時の開拓民 7 名が死亡、3 名の重傷者を出すという被害があった。

事件の記録はノンフィクション作家の木村盛武は旭川・古丹別の営林署に農林技官として勤務していた 1961 年から事件を記録として残すべく、調査を開始した。既に 46 年が経過し、しかもほとんど資料が残されていない中、木村は当時三毛別に住んでいた人々を辿り、入念な聞き取りを行った。多くの当事者は既に世を去っており、また存命の人々も辛い過去を穿り返す取材に協力的でない者も多かったらしいが、足掛け 4 年の調査を経て、報告「獣害史最大の惨劇苫前熊事件」を纏めた。これは 1980 年に復刻され、さらに 1994 年には共同文化社から『慟哭の谷 The Devil's Valley』（ISBN 4905664896）として出版された。作家の吉村昭も事件を取材し、これを小説「熊嵐（TBS ラジオでドラマ化もされた）」に纏めている。取材には木村盛武をはじめ、当時在郷した人々から事件あらましを聞いている。なお、木村盛武の著書の一つで、1983 年に出版された『エゾヒグマ百科』にも、この事件の経緯が記されている。

事件が起こった六線沢には、町民の手によって当時の情景が再現された「三毛別熊事件復元現地」がある。鬱蒼と木々が茂る一角に、当時の生活を再現した家屋の復元、事件を解説する看板、犠牲者の慰霊碑、そして、民家に襲いかかろうとするヒグマの像がある。場所は、国道 239 号古丹別交差点から北海道道 1049 号を南に入り約 16km、三毛別川に架かるその名も「撃ち止め橋」の先にある。

また、北海道道 1049 号は、「ベアロード」との別名がつけられ、入り口や路傍に可愛い熊の絵が描かれた看板が随所に見られる。観光の目玉としての活用や野生動物との共生を謳う姿勢は別として、事件のあらましを知りつつ訪れる観光客にもたらず複雑な感想は多くのブログなどで語られている。

なお、苫前町郷土資料館「古代の里」にも、三毛別熊事件に関する豊富な資料が展示されている。

図 2 ベアロード



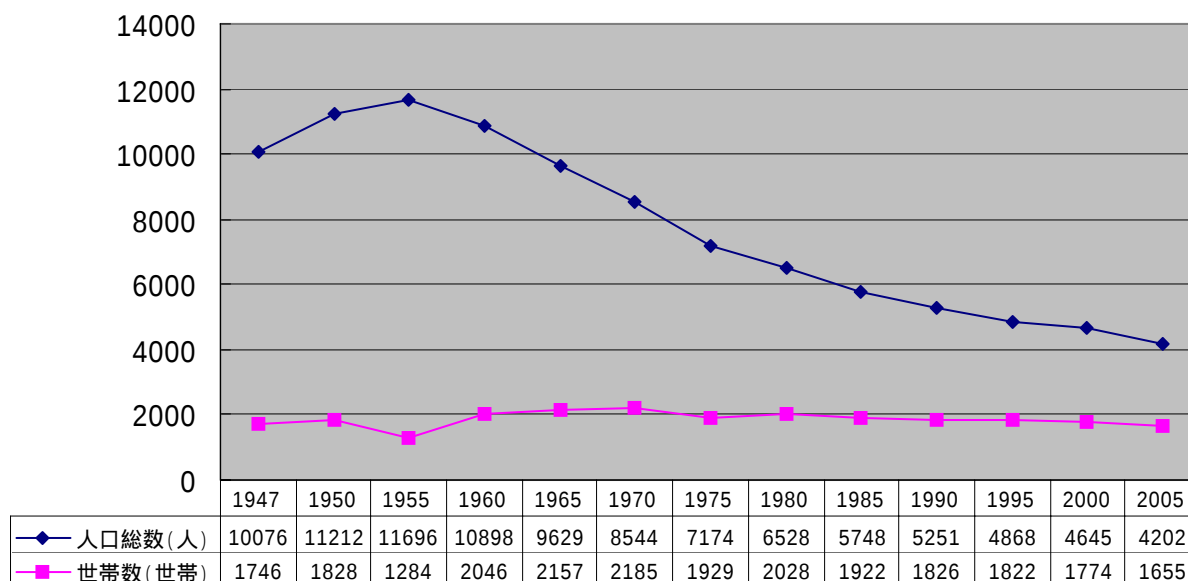
出典：苫前町 HP

2. 人口

2.1 人口の推移

人口の推移は以下のグラフの通りである。

グラフ1 苫前町人口総数・世帯数



人口総数は 1955 年を人口増加の頂点としてそれ以降は人口は確実に減少しており、苫前も過疎化が進行していることが読み取れる。また世帯数は人口総数が減少しているのに依然として横ばい状態であることから、核家族世帯が増加していることがわかる。またなかでも老人の核家族世帯が多くあるということが読み取れる。

そこで苫前町役場はホームページに空き家情報や農業体験者募集などをのせて積極的に人口の活性化をねらっている。

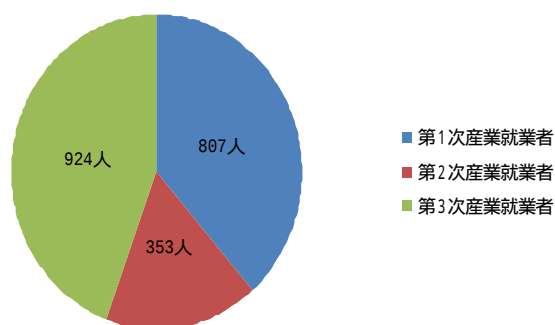
3. 産業

苫前町の産業別就職者数は右のようになっている。

苫前町は農業、漁業といった第一次産業の就業者が多く見受けられ、第一次産業の盛んな様子がグラフから分かる。

また、第一次産業だけでなく第三次産業のようなサービス業も盛んである。

グラフ2 産業別就職者数



出典：平成 17 年度国勢調査

表 1 苫前町漁獲高

	平成14年(t)	平成15年(t)	平成16年(t)
にしん	11	15	6
さけ	16	7	6
ひらめ	35	45	43
かれい類	417	472	489
ほっけ	29	26	32
そい	5	4	4
かすべ	21	13	11
あぶらこ	3	2	2
えび	267	254	223
すけそ	26	27	15
たら	18	35	8
はたはた	7	5	13
いか	349	342	308
たこ	463	423	368
ほたて	3007	2449	2575
なまこ	43	39	35
その他	79	94	195
計	4796	4252	4333

出典：苫前町 HP

表 2 平成 17 年苫前町農業生産額

米	71
麦	5
豆類	21
イモ類	2
野菜	58
花	1
工芸農作物	8
乳牛(生乳)	65
豚	2
その他	1
合計(千万円)	234

出典：農林水産省 HP

3.1 漁業

苫前では苫前漁港で漁業が行なわれている。苫前漁港は、北海道苫前郡苫前町にある第 3 種漁港である。

組合員数は 64 名（2001 年 12 月）で、1951 年 10 月 17 日に第 3 種漁港に指定されている。

水揚げされる主な魚類は、ホタ

テガイカレイ、いか類、タコ、エビ類、主な漁業は海面養殖業、刺し網漁業である。

3.2 農業

苫前町の農業は漁業で栄えたため、香川県の団体移住者が移住し、その移住者たちが農業を始めたのがきっかけだった。

苫前町の特産物には赤肉メロン、青肉メロンなどの苫前メロン、スイートコーン、ミニトマト、イチゴ、かぼちゃ、だいこん、ジンギスカンなどのようなものがあげられる。

また苫前メロンやイチゴをふんだんに使用したワインなども製造されている。

4. 風車

苫前町は全国でも指折りの風車の名所である。平成 3 年、山形県立川町で実際に風力発電を利用した「風によるまちおこし」が行われたことがきっかけで、本格的に風力発電

図 4 風来坊



出典：苫前町 HP

導入に向けた取り組みが始まった。ただし、この時点で分かっていたことは「風が強い」ということだけだった。このため平成7年度から8年度にかけて旧通産省等の助成を受け、風況調査などを実施、その結果、苫前町は日本有数の風力発電最適地というデータが得た。

このデータをもとに町は電力会社と協議を行い、夕陽ヶ丘地区に3基の風力発電施設の設置を計画した。

計画は平成9年に旧通産省の「地域新エネルギー導入促進事業」の採択を受け、平成10年から年1基ずつの建設が始まり、平成12年に完成した。こうして出来たのが、「夕陽ヶ丘ウインドファーム～風来望」。

現在、発生した電力の一部を、各風車の夜のライトアップや周辺施設の消費電力へ活用したほか、余剰電力は電力会社に売電を行い、平成13年度には約5000万円の売電収入を達成している。

この「風来望」は、ただ売電するだけにとどまりません。町内の観光施設「とままえ夕陽ヶ丘オートキャンプ場・ホワイトビーチ」に隣接する丘陵地にあるため、まさしく風の町苫前町のシンボリック存在であるとともに観光の目玉ともなっている。特に、ライトアップされた夜の「風来望」は、幻想的な魅力に包まれ一見の価値がある。

5. 観光

平成9年から平成12年にかけて飛躍的に入り込み客数が増えており、この理由を推測するに、この時期は風車が着々と建設されていた時期であったり、とままえ温泉ふわっとが開湯されたこともあり、おおくの観光名所が新たにできたためと考えられるだろう。

苫前町的主要観光名所は霧立峠、ローソク岩、古代の里、夕陽ヶ丘ウインドファーム～風来望、上平グリーンヒルウインドファーム、その他風力発電が盛んである。国道232号からみる北海道最大級の風力発電風車群は圧巻。

同様の大風車群は苫前町より北の幌延町でもみられる。日本海を一望できる温泉「ふわっ

図5 苫前グリーンヒルウインドパーク



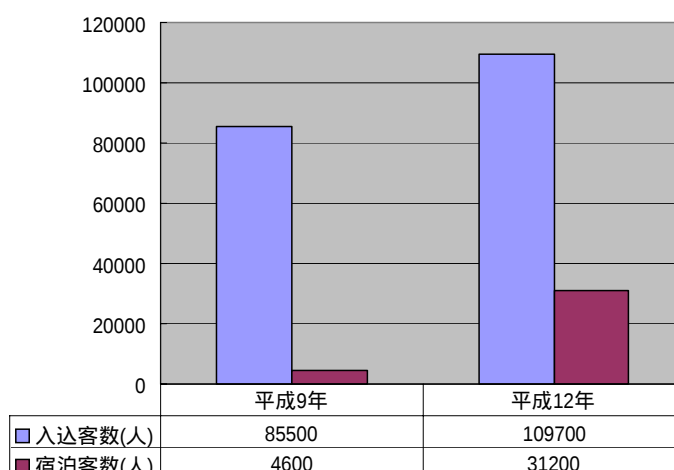
出典：苫前町 HP

図6 苫前ウィンピラ発電所



出典：苫前町 HP

グラフ4 苫前町観光入り込み客数



参照：苫前町役場 HP

と」は、地元民のみならず、多くの支持を集めている。主要産業は沿岸漁業、農業、酪農、林業など。農業は米などを生産。

苫前温泉（とままえおんせん）は、北海道留萌支庁管内苫前郡苫前町（旧蝦夷地、明治以降の旧天塩国）にある温泉。泉質・ナトリウム - 塩化物強塩泉、源泉温度 48.5、温泉街、日帰り入浴施設と宿泊施設を兼ねた新日本海地域交流センター「とままえ温泉ふわっと」の一軒宿、道の駅風とままえ内にある。2002 年開湯。

また、苫前町の主な観光施設には以下のようなものがある。

三毛別熊事件復元跡地

大正 4 年（1915 年）12 月、町内三溪で発生した熊事件の史実をもとに復元された。開設期間は 5 月から 10 月までの間。

図 7 三毛別熊事件復元跡地



出典：苫前町

古代の里

郷土資料館・考古資料館・復元住居など体験学習施設としての機能を備え、北方の生活文化の変遷とともに開拓時の熊との関わりに重点を置く展示品を揃え、入館者に昔ながらの生活体験を感じさせる情報を提供。また、野外には縄文・擦文・オホーツクの復元住居を配置し、散策しながら古代ロマンが味わえる。年、3,000 人～4,000 人が訪れる。

図 8 古代の里



出典：苫前町

ローソク岩

日本海に浮かぶ自然界が創作したオブジェ。

図 9 ローソク岩



出典：苫前町

参照 HP：

北海道農政事務所：<http://www.maff.go.jp/hokkaido/index.html>

農林水産省 HP：<http://www.tdb.maff.go.jp/machimura>

ウィキペディア：

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%8B%AB%E5%89%8D%E7%94%BA>

苫前町役場公式 HP：<http://www.town.tomamae.lg.jp/>